

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100266		
法人名	株式会社 サンボウ		
事業所名	グループホームぬくもりの里		
所在地	千歳市住吉4丁目8番14号		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を理解したうえで個人を尊重し特別な事を提供するのではなく、普通の暮らしを提供出来るよう常に心がけ職員一同日々取り組んでおります。又、地域に密着したグループホームになるよう目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100266&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームぬくもりの里は、バス停から徒歩2分と利便性に優れ、家族や知人が訪問しやすい環境にあります。グループハウスを併設しており、行事や訪問を通し、交流を図っています。地域の方々とは、行事の相互参加や運営推進会議への参加等で、ホームの理解に繋がっています。職員は、日常的な外出支援や日々の生活で、五感刺激に繋がる取り組みを行っています。法人負担で、週4回の訪問リハビリで身体機能の維持を図るなど、利用者の心身に寄り添ってケアサービスに努めている職員に、家族からの感謝と信頼の言葉は、職員全員の励みとなっています。まさしく、「ぬくもり」のあるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し業務に取り組むよう努めている。	ホームの社会的役割を認識し、利用者の視点に立った理念を職員同士で確認しながら、サービスの質の向上に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加(盆踊り等)や施設の行事へのお誘いの声掛けをしている。	町内会とは、相互の行事を通して交流があります。活動状況を回覧板で周知し、見学に繋がっています。職業体験、七夕等での子供達との触れ合いは、利用者の心和む一時です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域学生の受け入れ等で認知症への理解の場を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの活動報告・状況報告を行い、意見や質問等を聞きサービス向上に努めている。	2ヵ月毎に開催し、ホームの現況、外部評価の課題、防災対策、地域高齢者の対応等が協議されています。会議を通じ、メンバーの方々と相互理解を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市窓口等へ出向く機会を意識的に増やし、情報交換等を通じて協力関係を築くようにしている。	行政担当者とは、ホームの課題を相談したり、情報交換等で協力関係を築いています。毎月、職員が市の窓口を訪れ、現状を報告する際に、運営推進会議への参加をお願いしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の会議で拘束はしない事への確認をしている。施錠はあるが、本人の意思通りに行き来出来るようにしている。	契約時に、身体拘束防止について説明し、同意書をいただいています。ミーティングや全体会議、研修等で拘束をしないケアの理解に努め、実践しています。各ユニットは内側から施錠していますが、利用者の意向による外出を支援しています。	家族の要望を踏まえ、リスク回避のため各ユニットは施錠をし、玄関は、センサーで出入りを確認しています。どちらも外から入室出来る状態ですので、それらを含め、職員の見守り強化等の工夫を凝らし、解錠に向けての取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	意識を持ち身体的・精神的にも虐待のないようにしている。スタッフ間でも身体の変色等の原因も話し合っている。スタッフで学ぶ機会をもっと欲しい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ必要な人には情報提供やそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専任の担当者が十分に説明し、納得いただいた上で契約等をしている。又、入居後も疑問などがあれば随時対応出来る様な体制を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声にならない声を読み取るよう努め、家族面会時には情報交換や想いを聞きだせる様会話を持つようになっている。	利用者の言動から思いを汲み取り、さらに、家族には外部の機関を伝え、来訪時には、要望を表し易い環境作りに努めています。課題は、解決に向け具体策を検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しく取り入れる際や変更の際は必要に応じて声を聞いてくれている。	運営者は、日常的にホームを訪れ、職員の要望や提案の把握に努めています。今回、提案による増員が決定しています。また、個人面談を設定するなど、職場環境の整備を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、各部署の長の報告を受け、必要に応じて職務内容の検、職場環境・条件等の見直しに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	絆の会に参加し交流の機会が増えた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心につながる様、求めている事を把握し納得するまで会話するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、家族の想いや不安を聞く等しコミュニケーションはかり、安心につながられる様努めている。又、利用者の想いを伝えられる橋渡し役になれる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にケアプランを作成し何が必要かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教わる事も沢山ある人生の先輩である利用者に、家にいるような感じで生活して頂けるよう信頼関係を築けるよう努め気持ちの共有を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の想いを基として家族へそれを伝えたり、それを踏まえた家族の想いを受け止め、家族と共に本人を支えられる関係を築いているが、より家族との理解を深めて行ける様積極的に取り組んでいきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出・外泊も自由出来るように支援している。	住み慣れた地域や交友関係の継続支援に努めています。友人、知人の来訪受け入れ、遠方への外出支援等で、繋がりを深めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人間関係を把握し利用者が孤立しないよう努めている。ユニット内ではなじみの関係になっており、スタッフも利用者が会話をしやすくなるようなきっかけ作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて医療機関や他事業所と連携を取り、情報交換を行い本人や家族の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示可能な方に関しては希望や意向の把握に努めている。困難な方に関しては表情や状態を観察し都度スタッフで話し合いをし把握に努めている。	利用者の思いは、日々の関わりの中で捉え、困難な場合は、家族の情報や生活歴等で理解を深め、利用者本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から聞き取った生活歴等フェースシートを個々にファイル化し、いつでも目を通せるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や記録、スタッフ間の申し送り等で現状把握し、その都度話し合いを持っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中でスタッフにより話し合い評価をしている。家族へも意見や質問をその都度いただいている。	利用者・家族の意向を把握し、個人記録を参考に、職員全員で介護計画を協議しています。評価を経て、2～6ヵ月の見直しや、急変時には、その都度適切な計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践された事はケア記録に記入し、更に細かい気づきについても忘れずに記入する事により、それを共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お風呂好きな方を銭湯に連れて行ったり、可能な限り本人や家族のニーズに対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容や病院、スーパー等本人の生活の必要に応じて対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望や選択が出来るようにしている。各医療機関に情報提供しながら関係を築いている。	かかりつけ医は、基本的に職員が受診支援をしています。協力医療機関による2週間毎の往診支援を行い、情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を敏感に気付けるように注意し、協力医療機関の看護師から相談助言を受け適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームから普段の生活状況に関する情報の提供を行い、入院中も状況把握に努め、早期退院に向け連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて今後の方針について医療機関の意見を参考にし家族と相談している。	重度化や終末期における対応指針は、文章化されていません。今後、看取りも検討しておりますが、利用者の急変時に、その都度話し合う機会を設定するのみに止まっています。	利用者や家族の安心に繋がる、ホームとして出来得る最大限の方針を明確にし、職員の更なる知識、技術習得、関係者の意識統一を図る体制強化等の環境整備の取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員を3名が取得。スタッフへ実習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は定期的に行っている。地域住民へ周知は行っているが訓練への参加は今後行っていく。	昼夜想定避難訓練を、年2回実施していますが、地域への協力依頼は、十分とは言えません。	利用者や地域の方々を交えた避難訓練や、災害時の備蓄品、地域の方々も含めた緊急連絡網の整備、屋内避難場所の確保等に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し尊厳を欠く声かけがあった際はスタッフ間で注意しあっている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保については、十分理解し、対応に気配りが見られます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、表情や行動からも自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々個々のペースを尊重すると共に、出来るだけ多くの方々に活気のある生活を提供出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理美容を始めとして、外出時のおしゃれや日々の服装・装飾品等選んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望の献立を考え提供している。味見や後片付け等をお願いしたり役割を持っていただき、その方の生きがいの1つへと繋げている。	利用者の希望を参考に、菜園の野菜や旬の食材を取り入れた献立を作成し、一連の作業を一緒に行い、食事時間を楽しく共有しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに注意しながら、個々の食事量・水分量を把握し調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の身体状況に応じた口腔ケアを行っている。自立の方の状況確認が課題。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを併用していても、仕草や時間でトイレにお誘いし、出来るだけ座位排泄につなげられるよう努めている。	チェックシートを参考に、言葉かけや誘導で、トイレでの排泄や自立排泄の支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握する事により、食事に工夫を取り入れたり併用で薬剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	早い時間が好きな人、遅い時間が好きな人等希望に出来るだけそっている。最低週2回は入浴していただけるようにしている。	体調や意向に沿い、週2回以上の入浴支援を行っています。清拭やシャワー浴、銭湯での入浴もありますが、利用者全員が浴槽でゆったりと過ごしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日同じ時間ではなくその日の様子で対応している。個々人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用についてスタッフ一同理解に努めている。処方が変わった時には報告書や申し送り周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみ、気分転換(晩酌・喫煙)の支援をしたり、園芸造りや料理の味付け時に教えていただいたりして個々の能力を活かせるようにしてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から外出行事を行い、希望があれば個別に外出する機会を設け可能な限りニーズに応えられるようにしている。	散歩や買い物、周辺での日光浴は、日常的に行われています。家族の参加を含む外出行事を企画し、気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはグループホームで管理をしている。自己管理が可能と思われる方には力量に応じた額を自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾や行事の写真を取り入れ工夫している。共用空間が広くないので、家庭的な雰囲気でも過ごすことが出来る。	居間には、季節に応じ、利用者と職員の共同作品がさり気なく飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出しています。採光や空調にも配慮が見られ、利用者の寛ぎの場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にもソファを置き、落ち着ける場所を作っている。喫煙者は喫煙所での交流もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	回想法の活用。全て本人のものを使用。好きな配置等お任せしている。支援が必要な方には安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	思い出の品や馴染みの家具、調度品が配置され、利用者や家族の意向に沿った居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かし安全安心のもと、本人の意思で行動できるように努めている。		